

スペイン代表におけるゲームパフォーマンスの変遷

—2010W 杯・EURO2012・2014W 杯を対象として—

コーチング科学研究領域

5014A021-8 竹中 達郎

研究指導教員：堀野 博幸先生

I. 序論

1. ゲーム分析に関する研究小史

サッカーのゲームパフォーマンスに関する研究は、4年に一度開催される「FIFA ワールドカップ」（以下、W 杯と略記）や、UEFA ヨーロッパ選手権（以下、EURO と略記）等の世界の強豪国同士が対戦する大会が分析対象となることが多い。

これらの研究は、Hughes & Churchill (2004)に代表される「ポゼッション攻撃」と、Hughes & Churchill (2004)に代表される「速攻」の有効性を示す研究の2種類に大別できる。しかし、これらの研究には、「シュートまたは得点に至った攻撃」のみを対象とし、「攻撃から守備への切り替え」「守備から攻撃への切り替え」「守備」の局面や失敗に終わった攻撃を対象としていないという問題点がある。

2. 目的

本研究では、2010W 杯・EURO2012 で優勝した後、2014W 杯ではグループリーグ敗退に終わったスペイン代表のパフォーマンスを明らかにすることを目的とし、さらに 2014 年にスペイン代表が敗退した要因を検証することを目的とした。

II. 方法

1. 分析対象

- ・2010W 杯の 6 試合（グループリーグ（以下、GL と略記）3 試合、決勝トーナメント（以下、決勝 T と略記）3 試合）
- ・EURO2012 の 6 試合（GL3 試合、決勝 T と 3 試合）

- ・2014W 杯の 3 試合（GL3 試合） 計 16 試合

2. 分析方法

芝の目やフィールドに引かれている線を手がかりとして、キックオフから試合終了までのボールの軌跡を時間軸に合わせてデジタイズ処理した。単位は 1/30 秒単位で、プロットには Dart Fish Connect Plus 8.0（ダートフィッシュジャパン社製）を用いた（図 1 参照）。

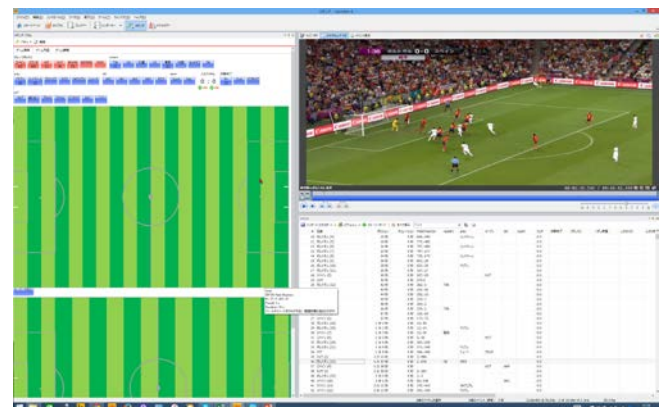


図 1 Dart Fish Connect Plus によるデジタイズ作業の一例

3. 分析項目

- ・1st プレーの方向
- ・ボール奪取までの過程
- ・一人あたりの移動距離
- ・一人あたりの保持時間

III. 結果および考察

1. ボール奪取後の 1st プレー方向

スペイン代表のボール奪取後の 1st プレー方向に関して、ディフェンディングサードで開始された攻撃に関しては、有意差が認められた（ $\chi^2=17.591$, $df=8$, $p<0.05$ ）。2010W 杯において、自陣ディフェ

ンディングサードに押し込まれたとしても、前向きに奪って攻撃に転じていることが示唆された（表 1 参照）。

表1 スペイン代表のディフェンディングサードにおける1stプレー

		前	斜前	横	斜後	後	合計
2010	度数	50	21	32	8	6	117
	期待度数	38.3	20.4	48.2	5.2	4.9	117.0
	調整済み残差	2.8	ns	-3.7	ns	ns	
2012	度数	38	24	62	7	5	136
	期待度数	44.5	23.7	56.0	6.1	5.7	136.0
	調整済み残差	ns	ns	ns	ns	ns	
2014	度数	36	21	62	2	5	126
	期待度数	41.2	21.9	51.9	5.7	5.3	126.0
	調整済み残差	ns	ns	2.2	ns	ns	
合計	度数	124	66	156	17	16	379

2. ボール奪取までの過程

スペイン代表のボールロストから奪取するまでのパス本数に関して、有意差 ($F=4.107$, $P<0.05$) が認められた（図2参照）。HSD法による多重比較の結果、2大会に対し有意差が認められた（2010W杯 < 2014W杯・EURO2012）。また、ボール奪取までのパス本数および奪取までの時間に関しても同様の結果が得られた。

これにより、2010W杯においては、ボールを失ったとしても素早く・失った地点の近くでボールを奪い返していることが示唆された。

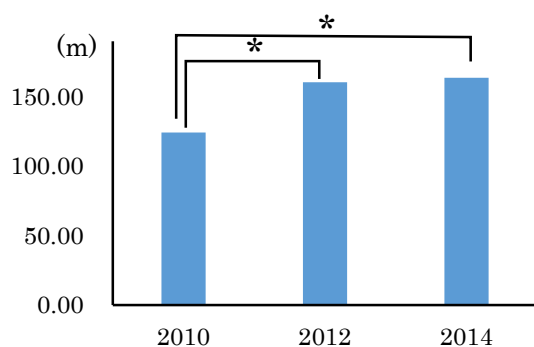


図 2 ボール奪取までの移動距離

IV. 結論

本研究により、スペイン代表のパフォーマンスに関して、以下の2つ点が明らかとなった。

- ・攻撃→守備の切り替えの局面で、素早く奪い返すことができなくなっている。

- ・ディフェンディングサードで前向きにボールを奪うことができなくなっている。

本研究では、これまで対象とされてこなかった切り替えの局面を対象に加えた。その結果、切り替えの局面におけるパフォーマンスがスペイン代表のパフォーマンスに影響を与えている事が明らかとなった。これまで扱われてきた攻撃局面の分析に加え、すべての局面を対象として分析を積み重ねることが、今後必要であると言える。